

東京都脳卒中急性期医療機関 患者受入当番表作成について(案)

当番表作成の目的

救急隊が、救急搬送時に、直接電話で受入病院を選定するために、受入可能医療機関を把握しておくことが必要。

作成の手順

作成単位	二次保健医療圏ごとに作成する。	
様式	別紙「イメージ図」のとおり。 曜日での固定が困難であれば、日々のカレンダー方式も検討する。	
更新期間	<各圏域での調整> 様式は一ヶ月ごとに作成。毎月最新の情報に更新する。 二ヶ月前に作業完了。(例): 3月の当番表は1月中に作成し、最終的に一ヶ月前の2月1日に事務局に提出する。	
事前準備	二次保健医療圏ごとの脳卒中急性期医療機関リストを基に、日勤帯・夜勤帯のそれぞれで、必要な枠数を検討しておく。当番表作成時に、必要枠数の確保を目指す。	
作成の流れ	期 限 3月の当番表 作成の場合	事 項
	1月中	<p>二次保健医療圏ごとに、対象医療機関へ確認を行う。 (様式へ を記入してもらう)</p> <p>二次保健医療圏ごとに集計し、t - P A実施可能、t - P A実施不可のそれぞれについて必要な枠数を確保できるよう、不足枠分については圏域内医療機関で調整する。</p>
	2月1日 (毎月1日)	<p>二次保健医療圏ごとの集計を福祉保健局にて集約。福祉保健局と毎月の当番担当医とで全体調整をして決定する。 当番担当医は圏域の委員(区部1名、多摩部1名)が毎月持ち回りで行う。</p>
	2月15日 (毎月15日)	<p>決定版を関係団体に提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急隊(東京消防庁、東久留米市消防本部、 稲城市消防本部) ・全対象医療機関 ・東京都医師会(各地区医師会)